LA 通信

第 650 回：資料調査の実践（2）（DM）

D（Doctoralstudent）　今回から、実験として、戸田山や小熊に倣い、会話体を取り入れようと思うのですが。

M（Man）　それはいいけど、そもそも、おたくの「資料調査」はどこまで進んだのさ？　そこを最初に言ってくれなくちゃ。

D　確かにそうですね。こんな感じで進めています：

まず、（I）**外大図書館で資料を見つける**：最初は自分に手近なところから資料を集めていきます。外大図書館ホームページ（いわゆる「OPAC」）にて、自分の研究対象等を検索しましょう。

私の場合、「埴谷雄高」と検索。すると、現時点で 36 件の資料がヒットします。その中から、自分の研究に関連しそうな資料をピックアップすると、およそこの通り：

1：磯田, 光一 北川, 透[編]（1982）『埴谷雄高 ; 吉本隆明』(鑑賞日本現代文学 ; 第 30 巻）角川書店：閲覧室書架, N910.26=14=30

2：鹿島, 徹（2000）『埴谷雄高と存在論：自同律の不快・虚体・存在の革命』（平凡社選書）平凡社：閲覧室書架, N910.268==82

3：武田, 泰淳[ほか](1972)『埴谷雄高論』河出書房新社：書庫　1F(開架), N918.68=10=16

それで、（II）**見つけた資料を実際に外大図書館でザッと読んでみる**：OPAC で見つけた資料を図書館で実際に読んでみましょう。ザッと字面を追うだけでも、「大体こんなことが書いてありそうだ」というのは分かります。

私の場合で言えば、特に「3」の『埴谷雄高論』が気に入りました。他の二冊もいいのですが、「3」の場合、刊行当時の主要な埴谷論が 20 本も収録されています。これを読み比べると、「埴谷雄高」という研究対象からどういう主題を選ぶことが可能で、その主題の何が問題になっているのか、おおよそ見当がつくわけです。いわゆる「先行研究の検討」ですね。

そして、（III）**必要に応じて、外大図書館外にある必要資料を探す**：これは次回、説明いたします。

こんな感じですが、いかがでしょう？

M　今までよりはマシかも。でも、この「3」って、1972 年の本でしょ？　流石に古いよ。「CiNii」とかで検索すれば、いくらでも新しい論文が見つかりそうなのに。

D　言いたいことは分かります。確かに、最新の研究を参照した方が、何かと都合がいい。

ただ、インターネットにアップロードされている論文はあまりに多種多様で、適切に読みこなすには技術が必要です。

それに比べて、こういう書籍化された論文は、価値が認められた段階で書籍化される場合が多いので、「この研究対象はこうやって読む」という観点を学ぶのに適しています。しかもこの「3」には、そういう基礎文献がいくつも収録されている。

私は埴谷雄高については初学者です。ならば、基礎文献を読み比べ、自分に近い観点を探すのが先かと。

M　なるほど。それじゃ、ちょっと読んだだけで「埴谷雄高の「自同律の不快」でレポートを書く！」って即決したのは、どういう

第 650 回：資料調査の実践（2）（DM）

わけ？

D　大いに反省しています。

……と、今回の LA 通信はここまで。次回は、外大図書館外での資料調査の方法を紹介します。次回もよろしくお願いします。

参考文献

[1] 資料調査について

エコ，ウンベルト（谷口勇[訳]）（1991）『論文作法：調査・研究・執筆の技術と手順』而立書房，57-130: 書庫 1F(開架)，N801.6==28

小笠原，喜康（2018）『大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書；2498）講談社，73-110: 閲覧室入口正面，K2498

小熊，英二（2022）『基礎からわかる論文の書き方』（講談社現代新書；2660）講談社，143-156: 閲覧室入口正面，K2660

戸田山，和久（2022）『論文の教室：レポートから卒論まで』（NHK ブックス，1272; 最新版）NHK 出版，56-89: 閲覧室入口正面，N816.5==140

[2] 埴谷雄高について

磯田，光一 北川，透[編]（1982）『埴谷雄高；吉本隆明』（鑑賞日本現代文学；第 30 巻）角川書店：　閲覧室書架，N910.26=14=30

鹿島，徹（2000）『埴谷雄高と存在論：自同律の不快・虚体・存在の革命』（平凡社選書）平凡社：閲覧室書架，N910.268==82

武田，泰淳[ほか]（1972）『埴谷雄高論』河出書房新社：書庫　1F(開　架)，N918.68=10=16